

これまでの調査結果に基づく耐震設計上考慮していない断層等に関する情報一覧

敷地周辺・近傍の断層等

名称	分布域	長さ	敷地からの距離	活動性を否定する理由
掛川市北部のリニアメント	陸域	2.5～6.3km	約 25km	リニアメントは岩相の境界に位置し、リニアメントに対応する位置の断層には角礫状の破碎なし、主に岩相境界を反映した侵食地形。
牧ノ原台地のリニアメント	陸域	0.2～3.0km	約 5km～約 20km	規模は小さく連続性なし、牧ノ原段丘面の起伏に伴って副次的に生じた変動地形。 なお、牧ノ原段丘面の起伏には震源となる断層の存在は推定されないが、仮にこの起伏と調和的な震源となる断層を想定しても、規模および敷地からの距離を考慮すると、敷地への影響は小さい。
御前崎台地のリニアメント	陸域	0.1～1.3km	約 3km～約 6km	規模は小さく連続性なし、御前崎礫層基底面に明瞭な高度不連続は認められず、御前崎台地の南西方向への傾動に伴って副次的に生じた変動地形か、プレート間地震に伴うお付き合い断層として、受動的に活動している可能性が高い。 なお、御前崎台地の傾動については、別途台地の北東沖海域に「御前崎台地の変動地形に関連する断層」を推定し、さらに南東延長の「御前崎海脚東部の断層帯」と一連の構造として評価。
御前崎海脚南方の斜面部に認められる小規模な構造	海域	7km以上	約 30km	斜面方向に向かって変位し、他の断層に規制される構造で、地下深部に連続しない構造と評価。一部はB層（更新統下部～上部）に変形なし。
御前崎台地～菊川河口付近の大陸棚に認められる褶曲構造	海域	5km～15km	約 3km～約 10km	D層（先鮮新統～鮮新統）またはC層（鮮新統～更新統下部）に変形が認められ、B層（更新統下部～上部）が分布せず、A層（完新統）に変形なし。 連続する陸域延長部の褶曲構造は上部を覆う後期更新世の堆積物に変形なし。

敷地内の断層・破碎帯・シーム等

名称	活動性を否定する理由
H断層系	敷地にはリニアメントは認められず、文献にも活断層は示されていない。 断層性状から塑性変形を伴う環境下で形成されたと考えられ、断層が形成されてから現在に至るまでに新たな破碎が起きていないものと考えられる。 形態および性状の類似した敷地近傍の断層は後期更新世の礫層に変位を与えていない。